

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価

岐阜県立大垣北高等学校

学校番号

21

1 学校教育目標	人間尊重を基調とし、智・徳・体の調和のとれたたくましく豊かな人間性を育み、高い志とグローバルな視野をもって人類・社会に貢献できる有能な人材を育成する。そのため、「誠実・友愛・努力」を本校の生活信条とし、その具現に努める。					
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー（GP）	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー（CP）	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー（AP）			
	○幅広い知識と教養をもち、グローバルリーダーとして国際社会の平和と発展に貢献できる生徒 ○豊かなコミュニケーション能力と高い倫理観をもち、多様な人々と協働することができる生徒 ○主体性と積極性をもち、自らが考えて地域や国の未来を切り拓いていくことができる生徒	○グローバルな視野と幅広い教養を育み、持続可能な社会の実現に貢献できる資質・能力を育成する探究活動の推進・基本的な知識の確実な習得とともに、主体的、能動的に学び合い、論理的な思考力や考察力を高める授業の実施 ○智・徳・体の調和のとれた、自主的で、たくましく豊かな人間性を育成する行事や生徒会活動、課外活動の実施	○地域や世界の様々な事象に関心をもち、自ら課題を発見し、その解決に向けて誠実に探究していける生徒 ○授業はもちろん、行事や部活動などどの方面にも積極的に取り組むとともに、友愛のこころをもって協働的に取り組める生徒 ○知的好奇心が旺盛で、主体的な学びを通して、幅広い教養を身に付けるよう不断の努力ができる生徒			
3 現状の分析	○生徒、保護者ともに教員の指導に対する信頼が厚い。 ○本校が今年度の指導の重点として掲げている「将来の生き方を考える機会の充実」「自他を尊重する心の醸成」の項目においては、生徒、保護者とも肯定的な評価の割合が高くなっている。（生徒96.3%、96.6%、保護者92.6%、92.6%） ▲学校の教育方針等を保護者にわかりやすく伝えるという項目において、昨年度より肯定的な評価の割合が下がった。（保護者R4:86.7%→R5:80.2%） ▲生徒、保護者とも読書の充実の観点においては、他の項目より低い評価となっている。（生徒66.2%、保護者74.9%）					
4 学校の抱える課題	・生徒の主体的な学習態度の育成と新学習指導要領に基づく観点別評価の充実。 ・進路意識の醸成に繋がるキャリア教育の充実。 ・危機管理マニュアルを遵守した初期始動と組織的な対応の徹底。					
5 今年度の具体的な重点目標	◇豊かな資質・能力を身につける ◇豊かな人間性を育む ◇高い志を醸成する					
年 度 目 標			年 度 末 評 価			
6 評価項目 領域・分野	7 重点目標の達成に必要な具体的 取組・方策	8 達成度の判断・判定 基準あるいは評価指標	9 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	10 評価 A・B・C・D	11 成果と課題	12 総合 評価
豊かな資質・能力を身につける ○確かな学力 ○探究的・主体的な学習姿勢 ○コミュニケーション能力	①各教科の授業等に、生徒自らが課題を発見し克服する機会をつくることにより、基礎的な学力の定着に努める。	①授業アンケート等の結果により判断・評価	ペアワーク等生徒同士の活動機会を積極的に作る等により、生徒が自ら課題を発見して、その解決に取り組む機会をつくることに努めた。	A	○個々の生徒に応じた指導に対する評価（生徒84.5%→88.9%、保護者84.0%→83.0%） ○授業アンケートの結果からも、各教科とも概ね課題克服のための機会を設けることができている。 ▲タブレットを含めたICT環境については、ある程度は活用しているものの、より効果的な活用の方法については、研究していく必要がある。 ▲探究的な学び・活動をより充実させるとともに、それを次につなげることについてもより意識	B
	②学級担任等による面談を通じ、自己の学習について振り返り、改善していく力を身につけさせる。	②考査等の結果により判断・評価 ③生徒の行動の観察により判断・評価	学級担任による面談に加え、必要な生徒については、教科担任による面談も実施するなど、自己の学習の振り返りの場を充実させることに努めた。	B		
	③各教科の授業等において、探究的な学びの場面を取り入れることにより、探究的な学習姿勢を育		各教科において、授業における探究的な学びの場面の導入に努めるとともに、交流・発表の場を多く設定した。	B		

○幅広い見識と教養	<p>む。</p> <p>④各教科の授業等において、生徒が学び取る場面を多く設けることにより、主体的な学習姿勢を育む。</p> <p>⑤生徒同士の交流の場を設けるだけでなく、社会人や小中学生など異世代との交流の場を効果的に設定することにより、コミュニケーション能力の向上をはかる。</p> <p>⑥幅広い見識と教養を身につけるため、ビブリオバトルを実施するなどの取り組みを通じて、読書に対する興味喚起を図る。</p> <p>⑦「危機管理マニュアル」の見直し・改善を図ること等により、生徒の安全を確保するとともに、生徒の安全に対する意識の向上を図る。</p>		<p>ICT機器を利用するなどして資料を提示し、自主的に取り組む課題を設定し、生徒が自分で動く機会を積極的に作った。</p> <p>異年齢との交流の場を意識的に設定することにより、価値観の刺激を図った。授業では企業に勤める社会人や大学教授と、授業外では小学生や中学生との交流も増加させた。</p> <p>図書館だより、読書感想文コンクール、ビブリオバトル講習会、読書の秋（LHR）、出張図書館（懇談中）などを通じて、読書に対する興味喚起を行った。</p> <p>「危機管理マニュアル」の見直しにあたっては「危機管理マニュアルのチェックリスト」を活用し、不審者対応の項目を追加し不測の事態に対応し、生徒の安全を確保するよう努めた。「命を守る訓練」を、内容を変えて3回実施した。</p>	A B B B	<p>的に行っていく必要がある。</p> <p>▲探究活な学びにおいては、その取り組みにおける個人差が大きいため、その差に対応した指導の在り方を見直す必要がある。</p> <p>▲教科における探究的な学びについては、各教科での一層の研究・充実が必要である。</p> <p>○読書活動の充実を図るため、例年以上に様々な取組を実施した。</p> <p>▲アンケートで約30%の生徒が否定的評価であり、広報活動の更なる工夫が必要。</p> <p>○学校安全の3領域（生活安全・交通安全・災害安全）は概ね実施された</p> <p>▲想定外の事態を極力想定内にするのは難しいのが現状である。</p> <p>▲危機管理マニュアルの保護者への周知は不十分であった。</p>	
<p>豊かな人間性を育む</p> <p>○高い倫理観と人権意識</p> <p>○自主性・協働性</p>	<p>⑧あらゆる場面を通して、「自分自身を大切に。自分や周りの人間がお互いに尊重し、助け合う」姿勢を育む。</p> <p>⑨あらゆる場面を通して、様々な人権課題が存在することについての理解を図るとともに、人権意識を高め、さらにはその解決に向けて努力する姿勢を養う。</p> <p>⑩文化祭などの学校行事等において、生徒個々が協力して自主的積極的に取り組むことができるように支援する。</p>	<p>①いじめに関するアンケート、迷惑調査等の結果により判断・評価</p> <p>②行事後に行うアンケート等の結果により判断・評価</p> <p>③校内の清掃状況等により判断・評価</p>	<p>アンケートや迷惑調査により、大人が生徒のSOSを受け止め、組織的対応を行い、SCとも連携してきめ細かく対応した。</p> <p>自分の命、他人の命を大切にしよう相談窓口の紹介やSCによるカウンセリングを実施した。</p> <p>外部講師の講話によりグローバルな人権課題について考える機会をつくった。</p> <p>一人一人の生徒の気持ちに寄り添った相談活動を行った。</p> <p>文化祭で生徒が自主的に活動し充実した発表をすることができた。運営に携わる有志の活動も活発だった。スポーツ大会等も皆積極的に取り組んだ。</p>	B B A	<p>○アンケート等により心の小さなSOSを早期発見することができた</p> <p>○多くの生徒や保護者がSCを活用し、専門機関にかかるきっかけづくりとなった。</p> <p>▲学校に来られなくなった生徒と直接話をする方法について対策が必要である。</p> <p>○執行部を中心に生徒が行事に積極的に取り組めた。</p> <p>▲生徒会執行部からの情報発信が少なめだった。</p>	A

	⑪日々の清掃活動より環境整備を図るとともに、ごみを出さない指導及びごみの分別収集を徹底し、環境や資源の保護に努める姿勢を養う。		学習環境を整えるため日々の清掃活動や月末には全員掃除を実施した。大掃除では普段できない所に重点的に取り組み、環境意識を高めるよう努めた。 ごみを分別したり、行事で自然由来の材料を使用したり環境や資源の保護に努めた。	A	○施設・設備は、学習環境の面でほぼ満足できる。(生徒94.4%→97.7%) ▲掃除道具の劣化が進んでいる。また、手の届かない場所に対する掃除ができない。	
高い志を醸成する ○グローバルな視野 ○持続可能な社会実現の視点	⑫「総合的な探究」や「進路講話」等において、社会の第一線で活躍している人の話を聞くことにより、現代の状況や課題を理解するとともに、社会の発展のために尽力したいという思いや課題解決に貢献したいという思いを醸成する。	①学校評価アンケート等の結果により判断・評価 ②学校内外の諸活動への参加状況により判断・評価 ③進路希望調査等の結果により判断・評価	「学部系統別説明会」では各大学の教授などから実際の研究について詳しく話を聞いた。入試に向けての話を中心に「進路講話」を実施した。 総合的な探究の時間を一つのきっかけとして答えのない問いに立ち向かい、探究する姿が増えた。また自身の進路選択と結びつけることができた生徒には非常に有意義な探究活動であった。	B	○第一線で活躍している人から話を聞くなど、将来の生き方を考えさせる機会を設けている。(生徒96.3%、保護者92.6%) ○SDGsについての理解を深めさせるなど、グローバル人材に必要な資質等の育成に努めている。(生徒86.3%→95.63%) ○進路志望調査では高い志を持つ生徒が多く、意欲のある生徒はインターンシップなど自主的に参加した。	B
	⑬特に「総合的な探究」については、「SD探究」として、SDGsについての理解を深める。		SDGsは様々な分野で重要視されており、教科横断的な学びにも繋がっている。	B	○外部行事や、ボランティア活動に積極的に参加することができている。 ▲現時点でもある程度高い評価は得ているものの、将来の生き方などについて、目標などを定められていない生徒もいる。将来の生き方を考えさせる機会については、更に充実をさせていく必要がある。	
	⑭コロナ禍により中止をしている海外研修については、令和6年度からの再開に向けて検討・準備を進める。		コロナ禍以前の海外研修から、再検討をし、生徒・保護者のニーズにあったものを検討中である。	B		
	⑮あらゆる場面において、自らの生き方について考える機会を積極的に設けるとともに、その実現に向けて、主体的に取り組んでいける姿勢を育む。		総合的な探究の時間をはじめ、様々な機会において外部講師を招き、教職員や各種講演会を実施した。	A	▲様々な問題を自分の問題としてとらえられるよう、生徒への指導の方法について更に研究し、充実させていく必要がある。	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年1月26日

13 来年度に向けての改善方策案

<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理の面からも学習環境の整備を更に進めてもらいたい。 ・本校の教育方針や指導方法や内容は概ね良い。 ・連絡や情報の周知など広報については、確実性や頻度など工夫してもらいたい。 ・海外研修をはじめ海外との交流に力を入れてもらいたい。 ・地域との連携を日常的に図り、多方面で協力を得られるような状況をつくっていくとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケートに教科共通の質問項目を設け、課題克服型の授業展開や探究的な学習姿勢を育む工夫がなされているかを年度末に検証できるようにする。 ・校内の研究授業に各教科統一のテーマを設け、ICTの効果的な活用方法を研究する。 ・総合的な探究の時間で実地調査にも取り組み、データを扱う内容を増やすなど研究分野に力を入れる。 ・更に環境衛生を保持増進するため、劣化した掃除道具の更新、充実、掃除のあり方の見直しを図る。 ・専門家や第一線で活躍している人の講話を聞くなど、視野を広げる取組を拡充する。 ・保護者への連絡を、オンラインを活用するなど確実に周知する方法を検討する。 ・定期的にアンケートを継続して、SOSの早期発見・早期対応していくと共に、コミュニケーション能力や問題解決能力を養う取組を実施する。
---	---